

東邦大学医療センター大森病院臨床研修プログラム

大森・選択専攻科目

乳腺外科（4週以上）

1 研修プログラムの目的と特徴

近年、乳腺疾患は乳癌の罹患率の上昇と相まって外来受診患者は増加する傾向にある。乳癌は患者サイドへの情報公開（Informed Consent：IC）が最も進んだ疾患のひとつであり、特に大学病院は地域医療の指導的役割を担うため**乳腺専属医**（乳癌学会専門医ないし認定医）が初診・再診を担当し、患者のニーズに応じた良質な Evidence based Medicine(E.B.M)に基づく診療をおこなう。さらに女性の心理面に配慮したきめ細かな態度と診断・検査・治療のみならずオンコロジストとして、またターミナル・ケアまでの総合的な診療体制が乳腺外科の特徴である。診断学、各種検査手技、手術技能、化学療法と内分泌療法の知識、放射線療法への関心など広範囲にわたる知識が要求される。研修医は乳腺疾患の一次検診、二次検診の意義を理解し基本的な診断・検査手技の修得を目指しマンモグラム、乳腺超音波検査など画像診断能力の向上、穿刺吸引細胞診をはじめとする基本的手技を経験し手術の助手として参加する。また化学療法については E.B.M の重要性を認識し、臨床腫瘍学への理解を深めることを GIO とする。

2 プログラム管理運営体制

乳腺内分泌外科医員の合議により適時修正や変更を行う。

3 教育プログラム

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は4週以上である。
期間内は乳腺外来と乳腺外科病棟に配属される。

3-2 一般目標（GIO）

乳腺疾患の一次検診、二次検診の意義を理解し基本的な診断・検査手技の修得を目指しマンモグラム、乳腺超音波検査など画像診断能力の向上、穿刺吸引細胞診をはじめとする基本的手技を経験し手術の助手として参加する。また化学療法については E.B.M の重要性を認識し、臨床腫瘍学への理解を深めることを GIO とする。

3-3-1 行動目標（SBOs）

- 1) 乳腺外科は若い女性から高齢者までの女性が主な対象である。特に精神・心理面に配慮した適切な身体診察（乳房の触診など）を行うことができる。
- 2) マンモグラム、超音波検査所見の基本を理解する。（例）カテゴリー分類など
- 3) 乳腺外科に特有な解剖、生理、手術操作手技を修得する。

- 4) 手術の助手、周術期管理、リハビリテーションの指導を行うことができる。
- 5) 化学療法の基本を理解する。とくに St,Gallen カンファレンスや ASCO などの国際的なコンセンサスを認識し JCOC, NSABP プロトコルをはじめとする最新情報の捉え方を修得する。
術前化学療法、術後補助化学療法と再発転移例への化学療法、臨床治験についてそれぞれの相違を述べることができる。
- 6) 術前・術後の周術期管理とリスク評価ができる。

3-3-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- 1) 妊娠や授乳、閉経など女性の心理に配慮した問診ができる。
- 2) 身体診察は女性看護師が同席することが大切で、その必要性を理解できる。
- 3) 乳腺の解剖、腋窩リンパ節、神経について理解できる。
- 4) 乳房腫瘍の計測と評価、穿刺吸引細胞診、乳頭分泌採取、マンモグラムのカテゴリー分類、超音波診断に携わる。
- 5) 乳腺良性疾患手術の術者、乳癌手術の助手ができる。
- 6) センチネル・リンパ節の概念を知る。
- 7) 化学療法の副作用を理解し奏効率と生存率だけでなく Q.O.L 評価ができる。
ASCO, StGallen などの知見に基づく診療をおこなう。
- 8) 再発・転移症例の管理ができる。
- 9) 終末期医療を全人的医療の側面から理解し、癌性疼痛への適切な対応を学ぶ。

3-3-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

- 1) 急性乳腺炎
- 2) 乳房膿瘍
- 3) 乳腺症
- 4) 乳腺嚢胞
- 5) 乳腺良性腫瘍（線維腺腫等）
- 6) 乳癌
- 7) 上肢浮腫
- 8) 全身骨転移、高カルシウム血症
- 9) 肺転移、癌性胸膜炎
- 10) 肝転移
- 11) 脳転移
- 12) 癌性疼痛
- 13) ターミナル・ケア

・臨床研修ガイドラインにおいて挙げられた、「経験すべき症候（29症候）」および「経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）」についても各研修分野で該当するものを外来診療または受け持ち入院患者（合併症含む）で自ら経験する。「経験すべき症候（29症候）」および「経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）」の詳細については別紙参照のこと。

・上記症候、疾病・病態を経験したことの確認については各研修分野の臨床研修指導医による病歴要約の確認、および卒後臨床研修/生涯教育センターにおいて全研修医の病歴要約の確認をもって行う。

3-3-2-C 特定医療現場の経験

- 1) 乳癌検診を経験する。
診断法の会得 乳房触診法と正確な病歴の記載。
乳癌の早期発見にむけて自己検診の指導。
乳腺専門医に適切なコンサルテーションができる。

3-4-1 学習方略 (LS)

- 1) 回診： 毎日、朝（午前9時）から病棟回診、ミニカンファランスをおこなう。
- 2) 総回診： 一般・消化器外科の総回診があり、担当患者の説明をする。
- 3) 症例検討会： 毎週、月曜日、新入院患者の紹介、術前症例の手術方針などの外科合同カンファランスがある。
- 4) 抄読会： 隔週、水曜日。
- 5) 乳腺超音波診断： 毎週、レポート記入。
- 6) マンモグラム診断： 毎週、レポート記入。
- 7) 一般・消化器外科合同医局会： 週1回。
- 8) 講演会： 外部医師の招待講演 年に2～3回開催する。
- 9) 城南乳腺研究会（世話人）参加施設： 東邦大学医療センター大森病院、同大橋病院、昭和大学病院、慈恵大学病院、虎の門病院、三井記念病院、東京共済病院、日産厚生会玉川病院など。症例検討、教育講演がある。
- 10) 研修医症例発表会研修医による担当患者の症例発表。
- 11) 日本乳癌学会、日本外科学会、臨床外科学会、日本外科系連合学会、外科集談会などの学会、教育講演会への参加。

3-4-2 週間スケジュール

東邦大学医療センター大森病院の研修医規程を遵守する。勤務時間は午前8時から午後5時である。ただし外来診察、手術、抄読会、症例検討会、医局会、各種勉強会、放射線画像診断、超音波検査診断など時間外におこなうことがある。一般・消化器外科合同医局会に出席する。術後管理など担当患者の病態により勤務時間外におよぶことがある。規程により一般・消化器外科の当直勤務がある。当直明けは規程に順ずる。

3-5 評価 (EV)

乳腺疾患の基本的診療能力（態度、技能、知識）の修得を目標として評価する。さらにチーム医療としての手術、周術期管理を乳腺専門医、一般外科医師、病棟看護師、検査技師、放射線技師などとともに円滑に進行できたかについて評価する。

プログラム修了時に、乳腺診療チームメンバー、一般・消化器外科スタッフ・上級医師、放射線診断部、臨床検査生理機能部門などの意見、評価表を参考に乳腺疾患の診断・治療能力ならびに全人的医療に結びつく医師としての人間形成を加味して臨床研修指導医が総合評価する。なお、研修医の個別評価については病棟看護師長ならびに看護スタッフによる診療態度などへの意見を参考とすることがある。学内・外の学会、講演会などへの出席、発表をとくに重視する。

3-6-1 指導体制

本プログラムの最終責任者は東邦大学附属大森病院院長ならびに乳腺内分泌外科（大森）の研修指導責任者である。なお、直接の指導は乳腺外科チームの臨床研修指導医ならびに上級医が当たる。当直体制下には上級当直医師の指導を受ける。他部門の職員との協調を尊ぶ。

3-6-2 臨床研修指導医

添付資料『臨床研修指導医』該当診療科の臨床研修指導医、及び指導医責任者を参照のこと。

3-6-3 協力施設

※詳細は臨床研修病院群[プログラム冊子添付資料]参照